



「ヨーロッパ文化首都」のプログラム

文化が地方の再生化に貢献できるか？ イタリア・マ
テーラ（バシリカータ）の事例

関西学院大学国際学部 ジャン・モネ・チェア
ホルガー・ブングシェ

「ヨーロッパ文化首都」の プログラム

1. ヨーロッパの文化首都のプログラム:
その目標と歴史
2. マテーラ市とバシリカータの地方:
地理、歴史、経済と人口統計
3. マテーラの発展道: 「イタリアの国
の恥」から2019年の「ヨーロッパ文
化首都」まで
4. マテーラの文化首都のイベント: その
概念と影響
5. マテーラの事例に何が学ばれます
か?



欧州文化首都プログラム。その目的と歴史

在生	「町」を再生化する
向上	都市の国際的な知名度の向上
発揚	住民の目から見た都市のイメージの発揚
革新	都市の文化に新たな息吹を吹き込む
活性	観光の活性化



出典：欧州委員会
OCoC (HP)

欧州文化首都プログラム。その目標と歴史

A: 長期的な文化戦略への貢献 - 文化・クリエイティブセクターの能力強化、文化・経済・社会セクター間の長期的なつながりの発展

B: 文化的・芸術的内容 - 文化プログラムの構想・実施における地元アーティストや文化団体の関与

C: ヨーロッパの次元 - ヨーロッパの文化的多様性を促進する活動の範囲と質

D: アウトリーチ - 地域住民や市民社会の参加

E: マネジメント - 資金調達戦略および予算案の実現可能性

1.F: 実現能力 - 地方、地域、国の当局による広範で強力な政治的支援と持続的なコミットメント。

欧州文化首都プログラム。その目的と歴史

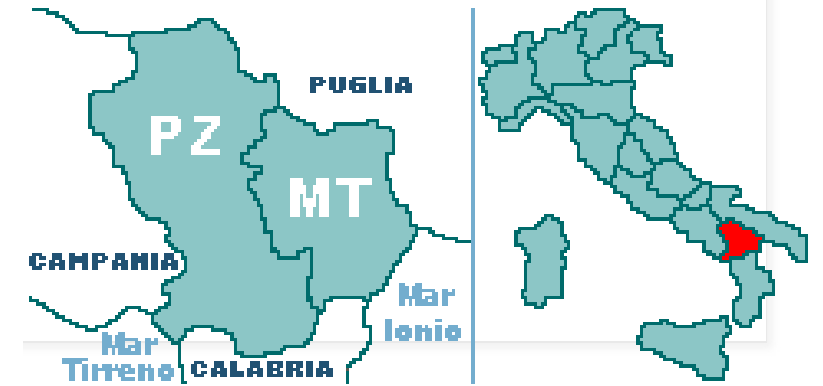
- 1985年にギリシャの文化大臣メリナ・メルクーリによって始められたプログラムです。同年、アテネは初の "ヨーロッパ文化都市" に選ばれた。
- 1999年からは "欧州文化首都" と名称が変更された
- 当初、プログラムは完全に文化的なものでしたが、2004年に委員会に提出された、プログラムが都市や地域の変革に与える影響に関する報告書（パーマー報告書）により、評価プロセスにおいて社会経済的な側面が重要視されるようになりました。
- 2000年までの初期には、主に首都が申請し、欧州文化都市の称号を授与された。
- 2000年以降、グラーツ、リンツ、アヴィニョン、ブルージュ、ジェノバなど、より多くの「地方都市」が選ばれている。
- また、ルール地方を代表するエッセンや、マルセイユ・プロヴァンス地方を代表する都市など、地域全体を代表する都市も応募されました。
- 2000年には、非EU加盟国の3都市（クラクフ、プラハ、ベルゲン）を含む9都市が新千年紀を祝う文化首都に選ばれている。
- 2005年から輪番制を導入し、都市推薦の対象国の順番を規定した

欧州文化首都プログラム。その目的と歴史

- 最初のステップでは、加盟国が国レベルで適切な都市（地域）を選択します。
- 選考は2つのステップに分かれています。事前選考と最終選考である。その都度、候補都市は「入札書」を提出し、詳細な質問に答えなければならない。
- 国家機関はプロセスを支援し、観察するが、決定は独立した委員会によって行われる
- 財政的な枠組みは、都市の規模や地理的な位置によって異なる。平均して、37%が国、34%が地域、残りは民間スポンサーや資金調達によって賄われている。
- EUの直接的な支援は非常に限られているが、該当する場合は地域開発資金を利用することができる。メリナ・メルクーリ賞（150万ユーロ）は条件付きです。（プログラム終了後に支払われます。）
- 2019年のマテューラは、長期にわたる人口減少に悩む、経済的に非常に不利な地域の町として、欧州文化首都として選ばれました

マテーラとバジリカータ。地理、歴史、経済と人口統計

- マテーラは、南イタリアの貧しい地域（メッツォジョルノ）にあるバジリカータ州の一部で、山岳地帯（アペニン山脈）に位置しています。
- 旧石器時代にはすでに人が住んでおり、世界で最も古い人類の居住地の一つとなっている
- ローマ帝国時代にはルカニアと呼ばれ、ローマと港町ブリンディジを結ぶアッピア通りに位置することから栄えた。
- 西ローマ帝国の崩壊後、この地域はロンバルド人、ランゴバルド人、後にノルマン人（11世紀）、最後にアンジュー家（13世紀）によって次々と征服され、統治された。
- 15世紀から、この地域はナポリの支配下に置かれ、17世紀にはナポリ共和国の一部となった。



マテーラとバジリカータ州。地理、歴史、経済と人口統計



マテーラの古い絵葉書

- 18世紀、バジリカータ州はブルボン家の支配下にあったが、1860年8月15日、新イタリア王国に自ら加盟した。
- イタリア建国後、国家は教会から土地の多くを没収し、貴族に売却したが、貴族は農民を搾取し続けた。
- 1880年から1924年にかけて、主に南イタリアからアメリカへの移住が続き、南北の経済格差が拡大した。
- 1922年にムッソリーニ率いるファシストが政権を握った後、特に1930年代には、人里離れたアクセス困難なこの地域は、政治犯やムッソリーニに反対する勢力の強制送還の場となった。

マテラとバジリカータ州。地理、歴史、経済、人口統計学



絵画カルロ・レヴィ 《イル・ヴィキナート》 1954年

- 1935年から1940年にかけてグラッサーノとアリアーノに住んでいたカルロ・レヴィは、強制送還された一人である。
- 第2次世界大戦後、1952年に行われた土地改革により、農民の生活条件は若干改善された。
- 同時に、衛生上の理由による転居を促進した。（イタリア統一を強化するためのその他のプログラム）
- 戦後、多くの人々が北イタリアでのより良い雇用機会を求めて、また1960年代にはドイツやその他の高成長国での雇用を求めてこの地を離れた（ゲストワーカー制度）。

マテューラとバジリカータ州。地理、歴史、経済と人口統計

- 経済的には、バジリカータ州は、イオニア海に面したメタポント地区を中心とした農業と、乾燥した山岳地帯でのヤギや羊の飼育（牛乳やチーズ）が主な産業となっています。
- 第二次世界大戦後、開発政策が転換された。
- 環境政策：水文河川工事、森林再生、灌漑網。
- 社会経済政策：土地改革（1952年）、農業労働者の再教育、教育水準の向上。
- 都市計画：化学工業を中心とした産業拠点の整備、研究・開発



バジリカータ州で放牧される羊たち

マテラとバジリカータ州。地理、歴史、経済と人口統計



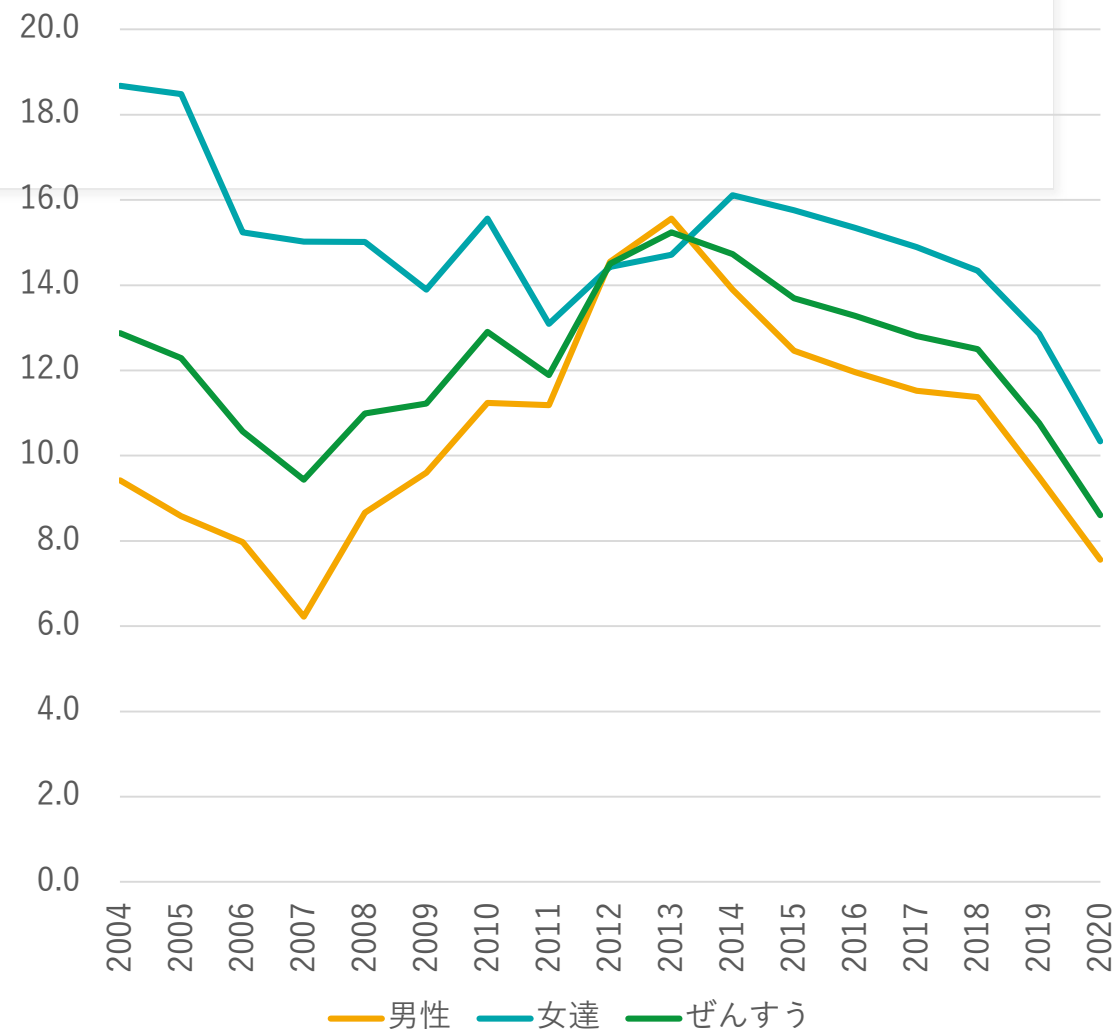
メルフィのフィアット工場での自動車組み立て風景

- EUとの共同出資によるインフラ整備に多くの投資が行われ、特に都市部が恩恵を受けた。
- 石油化学工業のほか、食品加工業（パスタ、オリーブオイル、ワイン）、繊維製造業（ウール工場）など挙げられる。
- 1993年、フィアットはメルフィに組立工場を設立し、7300人（うち4000人は自動車組立）を雇用する大規模な投資を行いました。
- その結果、多くの部品メーカー（Magneti Marelli、Learなど）も生産設備に投資を行いました。
- 最後に、特にイオニア半島とティレニア半島の沿岸部では、観光が主な収入源となっています。

マテラとバジリカータ州。地理、歴史、経済と人口統計

- バジリカータ州の雇用水準と一人当たりGDPは南イタリアで最も高いが、いずれも北部やEUの平均と比べるとかなり低い。
- 2020年の失業率は9.1%だが、若年層の失業率（15～24歳）は30%（statistica）
- 2017年の一人当たりGDPはイタリア平均の71%（Eurostat）

バジリカータ州失業率



データISTAT

マテーラとバジリカータ地方。地理、歴史、経済と人口統計

年	バジリカータの人口	変更 ±%
1861	509,000	
1871	524,000	2.9%
1881	539,000	2.9%
1901	492,000	-8.7%
1911	486,000	-1.2%
1921	492,000	1.2%
1931	514,000	4.5%
1936	543,000	5.6%
1951	628,000	15.7%
1961	644,000	2.5%
1971	603,000	-6.4%
1981	610,000	1.2%
1991	611,000	0.2%
2001	598,000	-2.1%
2011	578,000	-1.8%
2021	547,579	-5.8%

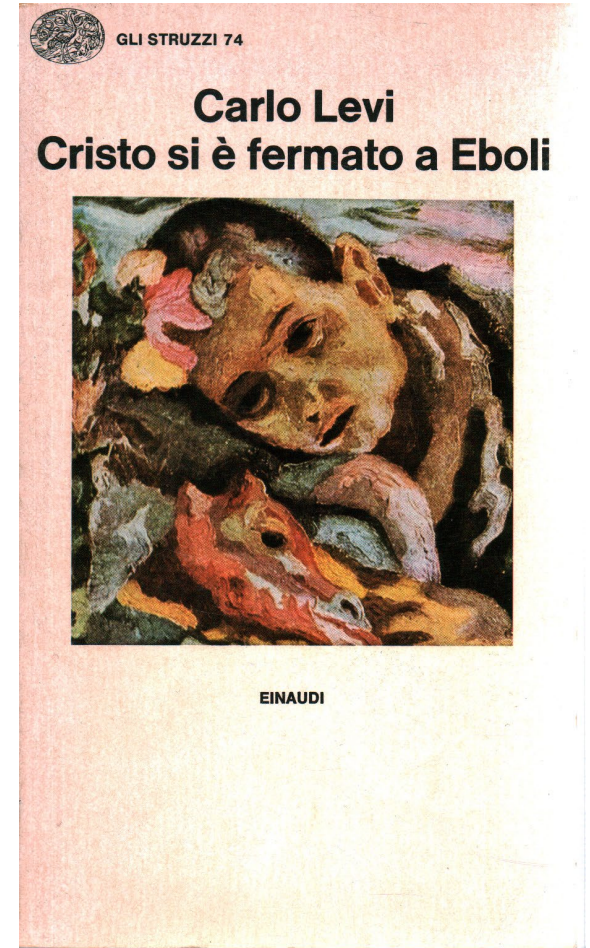
データISTAT

	1991	2001	2011	2021
バジリカータ	610,528	597,768	578,036	547,579
マテーラ	208,985	204,239	200,101	193,457
ポテンザ	401,543	393,529	377,935	354,122

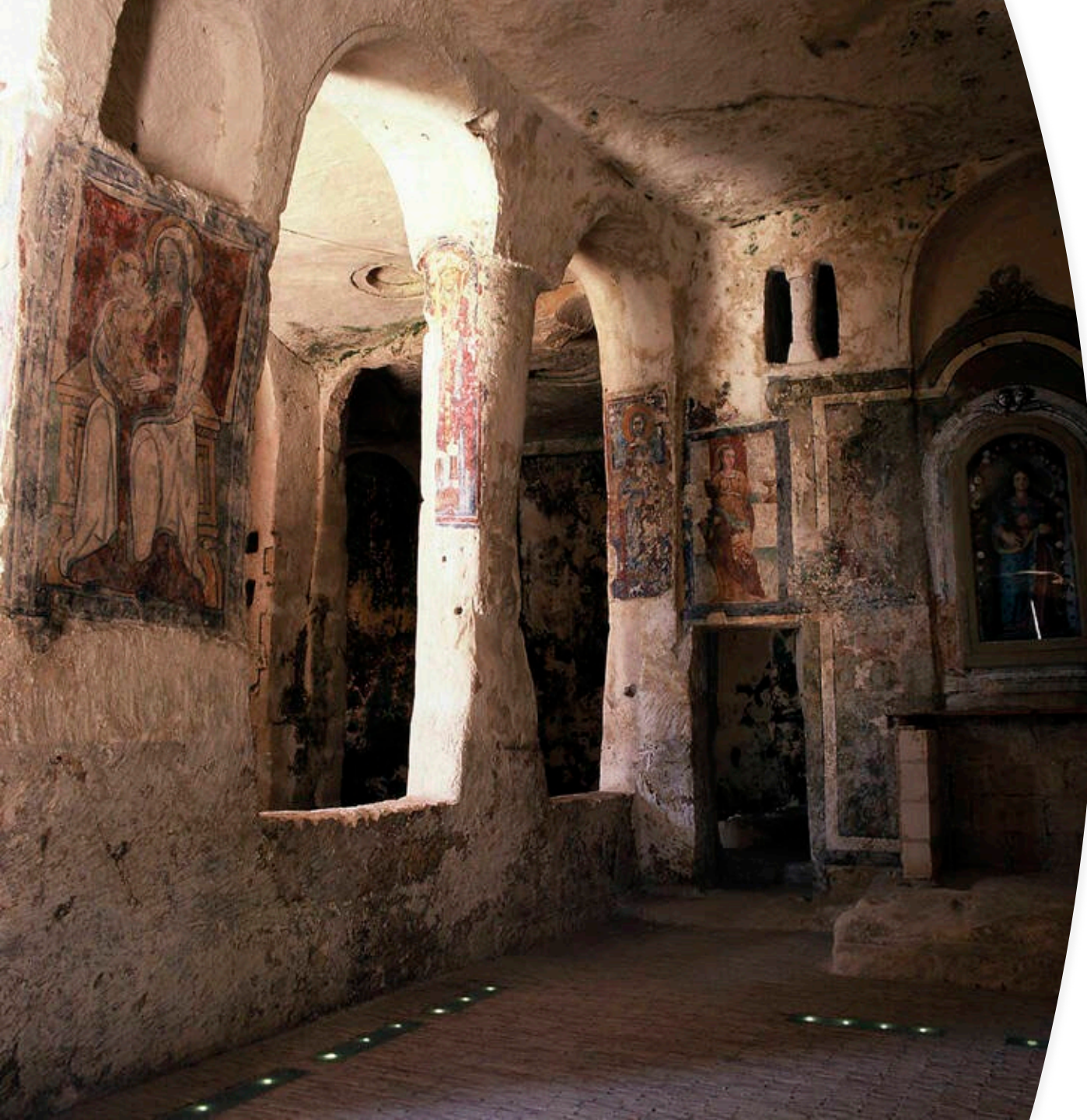
- 歴史的に見ると、イタリア、特に南部では、1880年から1924年の間に400万人以上がアメリカに移住し、人口が激減している（1900年から1910年の間に200万人）。
- ファシスト時代、移民はかなり減ったが、「工業化された北-農業化された南」という政策は、地域の発展にはつながらなかった
- 戦後の人口増加（ベビーブーム）は南イタリアにも影響を与えたが、1960年以降、南イタリアは人口減少の一途をたどっている
- バジリカータ州の人口密度：54.8人km²（イタリア平均：209人km²）。

マテーラの旅。イタリアの "恥" から2019年の欧州文化首都へ

- マテーラとバジリカータ地方を庶民の意識に戻した決定的なポイントは、3つある。
 1. 書籍「キリストはエボリで立ち止まった (Christo si e fermato a Eboli)」。
- この本は、1950年代の土地改革の実現に貢献しただけでなく、イタリア全土の人々に南北の大きな溝を意識させることになったのです
- 1979年には、イタリアの社会的不公正や組織犯罪（マフィア）をテーマにした作品を数多く発表しているフランチェスコ・ロージ監督による映画も公開され、本を超えて、マテーラはヨーロッパを中心に多くの人に始めた意識される様になった。
- マテーラに上下水道、電気、除湿装置が設置されたのは1970年代に入ってからである。
- これでようやくバジリカータに「文明」が到来したのである。



カルロ・リーヴァイの本の表



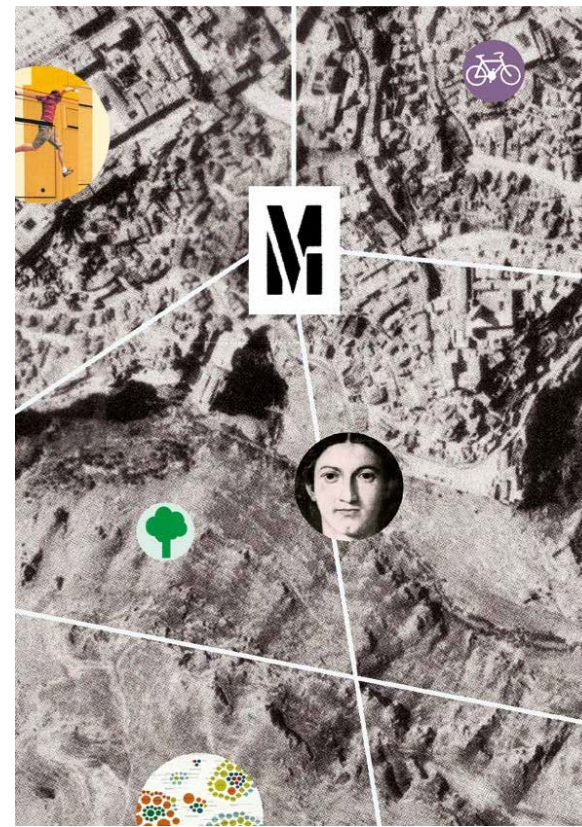
— マテラの旅。イタリアの "恥"から2019年の欧州文 化首都へ

2. 1993年、サッシと「マテラのルペストリアン教会群」がユネスコの世界遺産に登録されました。
- これは、地中海地域で最も優れた、無傷のトロロジカルの集落の例であり、その地形と生態系に完全に適応している。最初の居住区は旧石器時代のもので、その後の集落は人類の歴史におけるいくつかの重要な段階を物語っている。(ユネスコHPより引用)

マテーラの旅。イタリアの "恥"から2019年の欧州文 化首都へ

3. 2019年の欧州文化首都

- 2014年9月、マテーラ/バシリカータは、2019年にECoCになることをEU委員会に申請しました。
- イタリアでの競合候補はペルージャ、レッチェ、カリアリ、ラヴェンナ、シエナ
- もう一つの開催国はブルガリアで、ソフィア、プロブディフ、ヴェリコ・タルノヴォ、ヴァルナの4カ国が競い合いました
- マテーラの応募の長所は、他のすべての候補都市と協力し、共通のイベントを開催する意向があったことだ



MATERA 2019
OPEN FUTURE

欧州文化首都の候補都市マテーラ
2019

欧州文化首都マテラ2019：プログラムのコンセプトとインパクト



カヴァレリア・ルスティカーナ @ マテラ 2019

- 基本的なアイデアは、サッシを建築に手を加えることなく、連続的なライブアンフィシアターにすることでした。
- 100以上のイベントが開催されました。コンサート、劇場公演、展示会、現場介入など。
- テーマは大きく5つ。
 1. "太古の未来"
 2. "継続と破壊"
 3. "反省とつながり"
 4. 「ユートピアとディストピア」
 5. "Roots and Routes"

欧州文化首都マテーラ2019：プログラムのコンセプトとインパクト

➤ トピックは"ユートピアとディストピア"

マテーラの歴史における抑えがたいユートピア的緊張から出発し、「ユートピアとディストピア」というテーマでは、観光が経済的安定を達成する唯一の方法、テクノロジーが人間関係の唯一の仲介モデル、産業のモノカルチャーが発展の唯一の機会、食とワインが地域の主な識別要素など、南部の都市に関する先入観への挑戦となる新しい画策を検証しようと考えています。





— 欧州文化首都マテラ2019： プログラムのコンセプトと インパクト

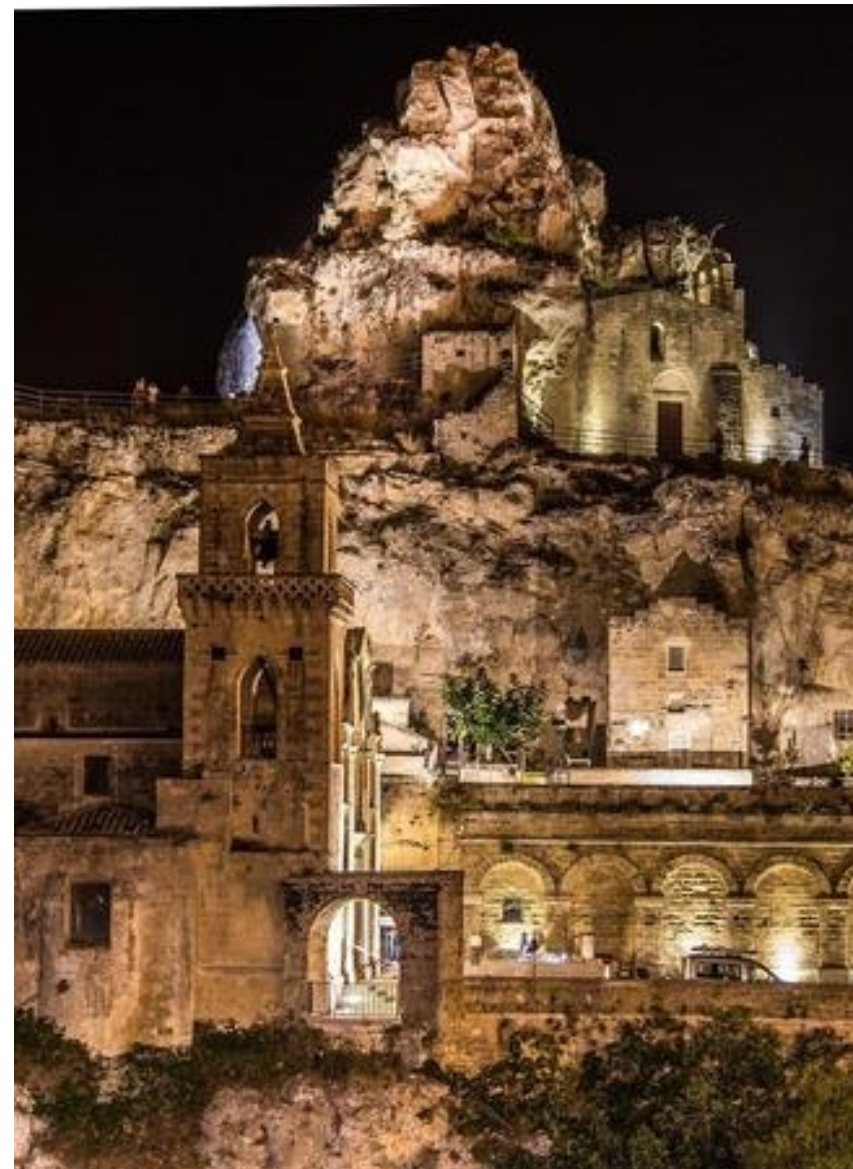
➤ その話題は"ルーツとルート"

「ルーツとルート」では、ヨーロッパを結ぶ移動文化の驚くべき可能性を的確に探っています。移動の本能は、マテラの日常生活に根ざしています。毎年、牛の群れがムルジャ高原を移動する「放牧」の伝統があるからです。マグナ・グラエキアからローマまで、あるいはビザンチンやロンゴバルド、アラブ、シュヴァーベン、アンジューの時代から、バジリカータは常に出会いと収束の場であったのです。近年、ヨーロッパの他の多くの地方と同様、マテラも壊滅的な移民ディアスポラに直面しなければなりませんでしたが、最近になって、南イタリア文化に根ざした価値に惹かれた若い世代が戻り始めているのを目にするようになりました。

欧州文化首都マテラ2019： プログラムのコンセプトとインパクト

➤ いくつかの目的マテラの認識

- 2020年には、70%の人が「マテラは若者にとって魅力的な都市である」と答える目標。(2014年は44%)
- 2020年までに90%の人が、未来の経済において文化が非常に重要な役割を担っていると思う目標。(2014年は64%)
- 2020年までに、70%の人がマテラは革新的で創造的な都市であると答える目標。(2014年は47%)



欧州文化首都マテーラ2019：プログラムのコンセプトとインパクト

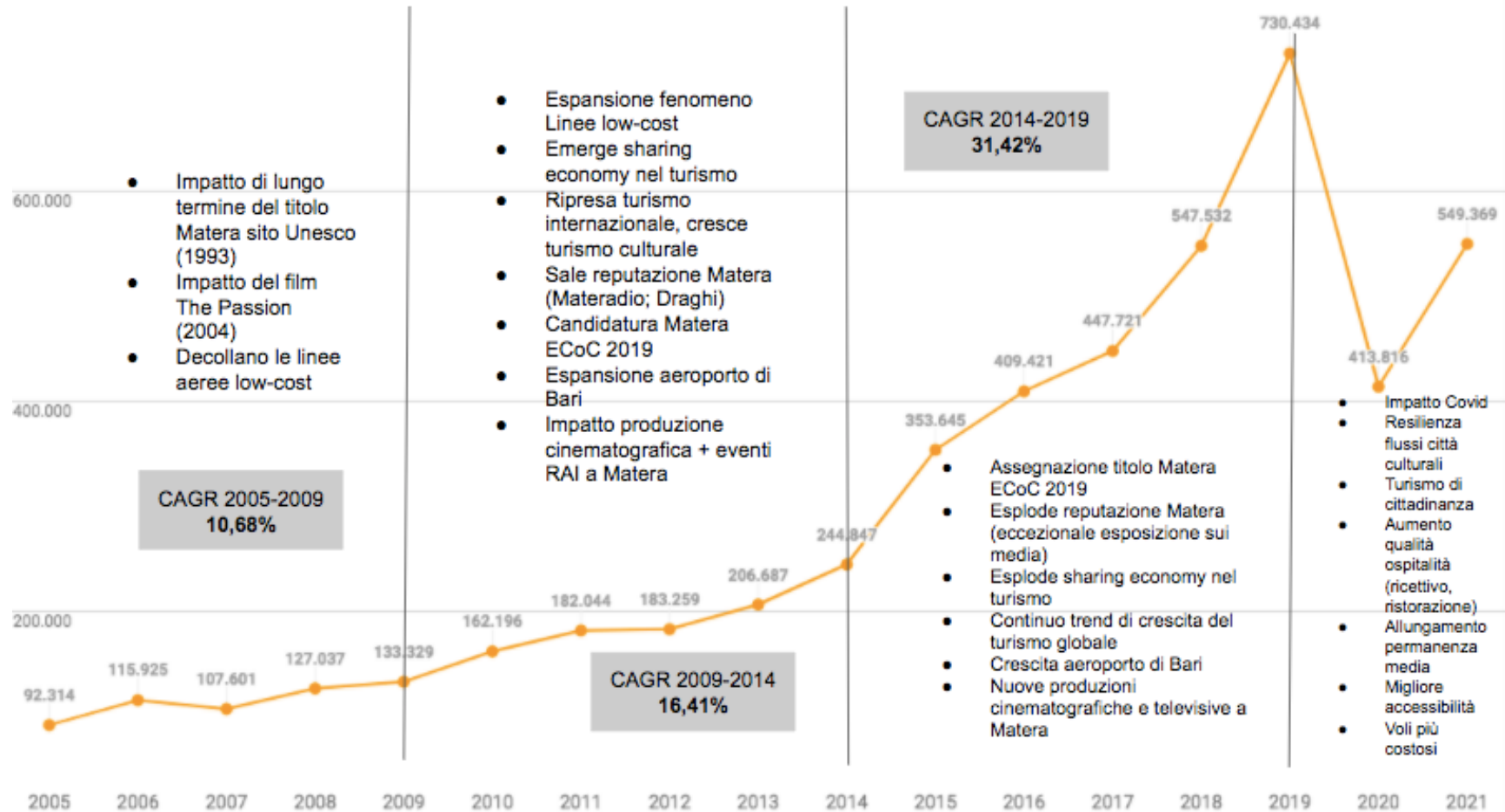
➤ いくつかの観光目標

- 2019年以降、年間60万人の観光客流入を達成し、うち50%を海外からの観光客とする。(2014年は30%)
- 平均訪問時間を30%向上させる
- 2016年からバーリとマテーラ間のアクセスを改善し、両都市間を45分で結ぶ道路と鉄道の時間制公共シャトルバスが運行されるシステム。
- 観光客の移動手段を変え、自家用車への依存を減らし環境負荷の低い統合的な公共交通機関の利用を促進することで、観光客の移動手段を変える。



MATERA 2019
OPEN FUTURE

観光開発



マテラから学ぶべきこととは？

1. あなたの地域の特色は何ですか？

- マテラと違って、すべての場所が世界遺産になるわけではありません。しかし、どんな場所にも特徴がある。

2. 統合された概念のみが機能する

- 地域の再生は、経済、社会、文化の健全な発展に基づくものでなければならない。

3. 地域協力だけが成功する

- 地域のライバルはゼロサムゲームではありません。成功する鍵は地域間の協力だ

passaporto
per matera

2019

参考文献:

- European Commission: *European Capitals of Culture* (ECoC HP) <https://ec.europa.eu/culture/policies/culture-in-cities-and-regions/european-capitals-of-culture>
- European Commission: *European Capitals of Culture 2020 to 2033. A guide for cities preparing to bid* https://ec.europa.eu/culture/sites/default/files/capitals-culture-candidates-guide_en_vdec17.pdf
- Education Broadcasting Corporation – PBS: *Destination America – When did they come?* https://www.pbs.org/destinationamerica/usim_wn_noflash_5.html
- Conceptcarz: *25 Years Of The FCA Melfi Plant In Basilicata* <https://www.conceptcarz.com/a34390/fca-melfi-plant-basilicata.aspx>
- Media Marche: *Basilicata - Economia* <http://www.tour-italia.com/Basilicata/Basilicata-Economia.html>
- Italy Heritage: *Basilicata Region* <https://www.italyheritage.com/regions/basilicata/>
- UNESCO: *The Sassi and the Park of the Rupestrian Churches of Matera*, <https://whc.unesco.org/en/list/670>
- Rotolo, Marina (2021): *“Internationalizing small-sized cities through mega-events: the case of Matera-Basilicata 2019 European Capital of Culture”*, <https://www.tandfonline.com/doi/full/10.1080/09654313.2021.1959726?scroll=top&needAccess=true>
- Ponzini D., Jones Z. M., D'Armento S., Scandiffo A., Bianchini F., Tommarchi E. (2020): *Urban Heritage and Mega-events: The Case of Matera-Basilicata 2019 European Capital of Culture*. <https://mck.krakow.pl/images/upload/homee/matera-report-file.pdf.pdf>